

4月26日～5月3日、アメリカテキサス州ヒューストンのマイケル・マクガイア先生の診療室において研修（オーラルフィジシャンアドバンスコース・ヒューストン研修：以下ヒューストン研修）を受けてまいりました。この研修は昨年9月に行われたスウェーデンのマルメ研修（ひるままだより18号参照）に引き続き、日吉歯科熊谷先生の主催するセミナーです。今回は熊谷先生の御好意もあり当院の一般歯科（虫歯・歯周病）治療を担当する妻、晝間直末と共に参加しました。

現在、世界の歯科医療はスウェーデンを始めとする北欧とアメリカがリードしています。今回の研修では、全米歯周病学会の会長を務められたマクガイア先生の診療室や実際の診療を見学し、世界最

高水準の歯科治療を直接感じる事、私たちの行なう歯科治療と比較し目指すべき将来の診療体系を明確にする事、各分野の専門医による講義を受ける事で最先端の医療を包括的に学ぶ事が目的でした。

マイケル・マクガイア先生

マクガイア先生は、アメリカの歯周病専門医としてヒューストンで開業されておりアメリカ歯周病学会の会長を歴任、2004年にはAmerican Top Dentistとして表彰され、世界各国の歯周病学会より招聘され講演を行うアメリカだけでなく世界的に有名な歯科医師です。患者さんにはヒューストン出身の大統領もいらっしゃるそうです。

**ヒューストン  
だより**  
2008.04.26～05.03



ヒューストン研修  
副院長・晝間康明

4月26日～5月3日、ひるま矯正歯科副院長がアメリカテキサス州ヒューストンで受講した研修（オーラルフィジシャンアドバンスコース）についてご紹介します。  
（写真はマイケル・マクガイア）

歯科先進国と

日本の歯科医療の比較

スウェーデンとアメリカの研修に参加した事で両国の歯科治療の質の高さを直接、強く感じる事ができました。両国と日本の歯科治療の決定的な違いは、メインテナンスが中心である事、歯をいきなり削る事はなく治療前の検査を徹底し治療を計画的に行なう事、治療は科学的な根拠（信頼性のある



研究結果）を元に行なう（evidence-based medicine）事を痛感しました。

両国では、歯を削ったり抜いたりする患者さんは3割程度、7割は定期的なメインテナンスにより虫歯と歯周病を予防したり、治療した歯が悪くならないように通院しているのです。メインテナンスは担当衛生士が徹底的に管理しているため、歯科医師は治療が必要なお3割の患者さんに集中する事が可能です。したがって治療時間は平均でひとり1時間、診療の内容によっては2～3時間の場合もありました。さらに、計画的な研究プロジェクトのつとめた臨床研究を大学と連携して行ない、実際の治療を再評価し治療の質向上に役立たせていました。

一方日本では、保険に組み込ま

アメリカの医療制度

アメリカでは個人が加入する任意保険で医療が行なわれていますが、加入料が高く、払えない国民は適切な医療を受ける事が出来ません。しかし、アメリカで行なう医療は民間の保険会社が医療機関を厳しく監視しているため質の低い医療を提供する機関では保険会社から支払いを受ける事が出来なくなります。また、訴訟も多い事から各医療機関は質の高い医療を担保する事が必須であるため、専門性が確立され各分野が発達し結果として世界の歯科治療をリードする位置にあるのです。

日本では国民皆保険制度であるため保険料を国に納める事で全国民が基本的な医療を保険で受ける事が可能ですが、保険制度で認められている医療は戦後に保険制度の基本方針が制定されてから大きな変化がない事、保険による医療を行なった結果を監視するシステムが無い事が問題となっていました。日本の保険制度では、質の高

れていない治療前の検査やメインテナンスを行なう歯科医院がほとんどありません。また保険診療の治療費は歯科先進国の4分の1、10分の1と非常に低く、短時間に多くの患者さんを診なければならぬのです。また衛生士の絶対数が不足しており、歯科医師が全ての患者さんを診ることも多いため一人にかかる治療時間は少なく臨床データを蓄積し分析する費用もない。治療の質を向上させる事は困難です。

ひるま矯正歯科の将来像

スウェーデンとアメリカの歯科医療に直接触れて強く感じた事は



い医療を提供するよりも保険で決められた治療費範囲内の医療をどれだけ経費をかせずに行なうかを優先したものが大半を占めています。これらが、日本の歯科医療の発達を妨げることとなり北欧やアメリカと差が広がってしまったのです。

研修の内容

ヒューストン研修では、マクガイア先生の診療室での研修が4日間あり、歯周病の基本的な治療から最新治療までの講義、実際の患者さんのインプラント植立手術の見学、根管治療（歯の根まで進化した虫歯に対する治療）の専門医による治療方法の講義、咬合（かみ合わせ）治療の最新の治療方法やコンセプトの講義が行われました。また、ヒューストン市内で開業している一般歯科医院見学があり、治療や治療に対するコンセプトを学びました。

歯科医師、歯科衛生士、患者さんが幸せそうに輝いている事でした。歯科医師は、技術を存分に発揮することで患者さんの幸せに貢献し輝いていました。歯科衛生士は、メインテナンスを担当する事で患者さんと共に歩みながら信頼され、歯科医師の行なった治療を最大限にサポートするため歯科医師からも信頼され輝いていました。そして、患者さんは質の高い治療とメインテナンスを受ける事で口腔内の健康を維持でき、いつまでもおいしいものを食べて健康で豊かな生活ができるため輝いていたのです。

現在の日本の歯科環境でこの様な環境を創る事は非常に難しいでしょう。しかし、ひるま矯正歯科は歯科先進国を見習い、担当衛生士によるリスク検査とメインテナンスを中心とした科学的な根拠に基づく治療を行い、歯科医師、歯科衛生士、患者さんが共に歩み幸せになる歯科医院を目指します。